

## 封建制社会

### 1. 主従関係としての封建制

起源：恩貸地制度（ローマ起源）

従士制度（ゲルマン起源）

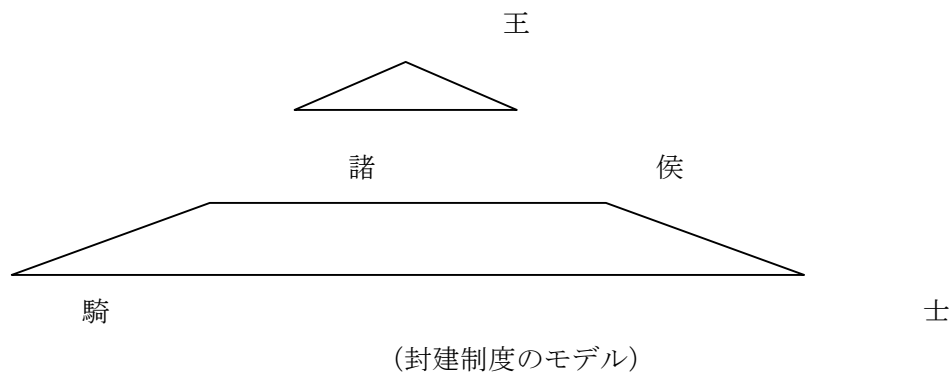
カール大帝：軍役に対して土地支給

双務契約に基づく

君主→臣下：封土、保護、他特権の付与

臣下→君主：軍役、助言、援助の義務

複数の君主を持つ



### 2. 荘園制度

「領主のいない土地はない」

コロヌス制（ローマ起源）

没落自由民（ゲルマン起源）

古典荘園

直営地と賦役

純粹荘園

直営地を欠く

領主裁判権

古典荘園

8世紀-11/12世紀-14世紀

直営地：荘園の1/3-1/5。

農奴の賦役（週賦役：3日/週）により経営。

託営地：慣習による保有。貢租を負担。

20ha（ドイツでは30モルゲン=7-8ha）。

共有地：放牧地、森林など。

賦役（週賦役と臨時賦役）

結婚税、死亡税、人頭税：農奴のみ負担。

経済外強制

領主裁判権と警察権

領主施設強制使用

7/8世紀 ライン～セーナ間の北ガリアに発生

### 3. 中世の農業革命 10-13世紀

穀草式農法

小麦→休耕（数年間）→小麦→休耕（数年間）

三圃制農法 10/11世紀-19世紀

秋蒔き小麦→春蒔き大麦・燕麦→休耕→秋蒔き小麦

大型重量有輪犁→共同労働→集村化（14-15世紀）

共同規制

ロワール川流域中心

繫駕法、蹄鉄、水車の使用

開墾と干拓

シトー派、領主、エルベ川以東（ドイツ騎士団）、イベリア半島

### 4. 荘園制の変質

12-15世紀 直営地の解体→小作地化

13-14世紀 賦役の金納化

14-16世紀 賦役の消滅

13-14世紀 農奴解放初夜権の買い取り

↓

### 5. 農民反乱

1358 ジャックリーの乱（フランス）

1381 ワット=タイラーの乱（イギリス）

「アダムが耕し、イブが紡いだとき、誰が領主だったのか。」

独立自営農民（ヨーマン）の出現 14-15世紀

### 6. 遠隔地貿易の発達 11世紀以降

地中海貿易

バーリ・アマルフィ→ヴェニス・ジェノヴァ

香辛料、明礬、藍、赤土、宝石、綿、絹・・・輸入

銀、奴隷、毛織物・・・輸出

バルト海貿易

1358 ハンザ同盟結成 リューベックとハンブルク

100 都市参加、

4 在外商館 (ロンドン、ブリュージュ、ベルゲン、ノブゴロド)

木材、毛皮、穀物、魚介類 (鯨や鱈など)

南ドイツ

銀鉱山を独占→フッガー家やウェルザー家などの豪商

ニュルンベルク、アウクスブルク

イタリア諸都市と北欧・東欧を結ぶ

シャンパーニュの大市 12-13 世紀←関税撤廃

トロア、プロヴァン、ラニー、バールの 4 市

↓

フランドル (ブルゴーニュ公領)

ヨーロッパ最大の毛織物工業地帯

アラス、ガン、イーブル

## 7. 中世都市

起源

フォブール (商人定住地) の発展

コンミューン (自治権) 闘争 10-13 世紀

自治特許状の付与

自治都市の成立

商人ギルドの支配 (例 パリー水運業者のギルド)

市長、市参事会を独占

ポーポロ・グロッシとポーポロ・ミヌート

1378 チョンピ (梳き毛工) の乱

ギルド

徒弟制

親方、職人、徒弟

ギルド規制

## 8. 中世末期 14-15 世紀

人口過密→食糧不足

降雨量の増加 1300 頃-1317 年 → 不作と飢饉

イーブルの例 1316 年 2 万人中 2794 人埋葬

50%の穀物価格の上昇

黒死病 (ペスト) の流行 1347-53 年

パリ 20 万人中 5 万人死亡

但し、ドイツや東欧ではあまり流行せず

↓

人口減少 無人村、廃村の出現

封建制の解体